

## 「ボランティア養成セミナー」

### 1 趣 旨

ボランティア活動に必要な知識や技能の向上を図り、ボランティアとしての資質を高め、広く社会でボランティア活動に取り組める青少年を育成する。

### 2 ねらい

- (1) 自然体験活動でのボランティアに必要な知識や技能の向上を図る。
- (2) 自然体験活動でのボランティアとしての資質や態度を養う。
- (3) 参加者同士で相互理解を深め、コミュニケーション能力を高める。

### 3 日 程

- (1) 期 日 平成 26 年 6 月 20 日（金）～22 日（日） 【2泊3日】
- (2) 参加者 62 名（大学生 62 名） ※募集 60 名
- (3) 研修内容及び講師

1 日目 (6/20)	夜	○受付 18:30・開講式 19:00 ○「体験で育つ子どもを支えるには」(青少年教育の理解) 講師:富山大学 松本謙一
2 日目 (6/21)	午前	○「リスクマネジメント」 講師:交流の家職員 ○実習「野外炊飯」 カレーライス 指導:交流の家職員
	午後	○「体験しながら学ぶ」(青少年教育施設の現状と運営) 講師:交流の家 次長 ○実習「ウォークラリー」 指導:交流の家職員
	夜	○「ボランティアってなあに」(ボランティア活動の意義) 講師:ボランティアセンター 茂尾亜紀 ○レクリエーション・エンカウンター 指導:交流の家職員
3 日目 (6/22)	午前	○「救命救急法講習」(含むAED) 講師:日本赤十字社石川県支部指導員
	午後	○選択実習「アーチェリー・いかだ体験」 指導:交流の家職員 ○「広がれ！のとボラのWA！」(ボランティア活動の理解) 講師:交流の家職員 ○閉講式 16:00・解散 16:30

### 4 成果と課題

- (1) アンケートによる事業評価

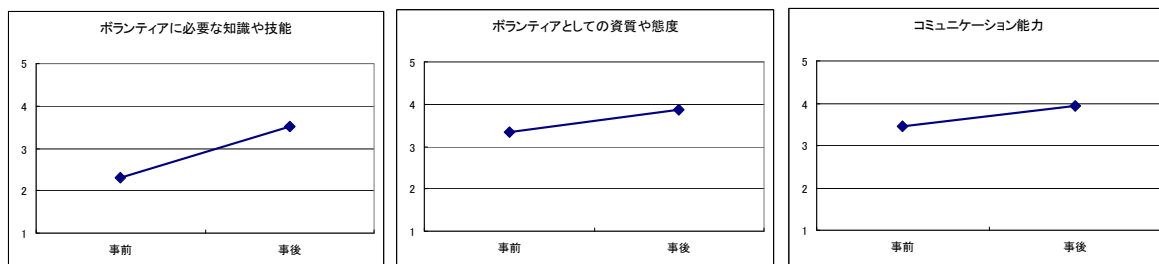
教育事業アンケートと社会性スキル尺度アンケート（事前・事後）の2種類を実施した。教育事業アンケートでは、事業全体、プログラム、運営面、職員の指導・助言等に関する満足度の全てで100%を達成することができた。

<参加者の記述より>

- ・班での活動が多く、ちがう学校の人や同じ宿舎の人ととても仲良くなれました。
- ・職員の方々の話し方、笑顔、気配り、セミナーの雰囲気の良さが印象に残りました。
- ・ボランティアについていろいろな視点から考え、学ぶことができました。実際に子どもたちが参加したときのことを考えることが大切だと思いました。
- ・もしも、AEDが必要な機会が来てしまったら、勇気をもって使おうと思いました。
- ・様々な場面で、団体をまとめる立場の人の意図を感じることができた。自分のこれからのボランティア活動で活かしていこうと思った。

社会性スキル尺度アンケートは、「ボランティアに必要な知識や技能（11項目）」「ボラン

ティアとしての資質や態度（16項目）」「コミュニケーション能力（8項目）」の35項目を質問紙法によって調査した。それぞれ「きわめてあてはまる・かなりあてはまる・わりとあてはまる・少しあてはまる・まったくあてはまらない」の5段階で自己評価した。事業開始時と終了時に同じ内容のアンケート調査を実施し、その変化をグラフ化した。（図1）



(図1) 事前・事後アンケート結果の変化(5段階)

- ・ 本事業の3つのねらいについてそれぞれ向上している。中でも、知識や技能におけるポイントの向上が顕著である。ボランティアに必要な知識や技能が、体験を通して実感できるように事業日程を組んだことが効果を高めたと考えられる。

## (2) 成果と課題

### 《成果》

- ・ 野外体験活動と野外炊飯のプログラムを3コマ実施した。具体的な実習を重ねたことが参加者の充実感につながった。
- ・ アンケートから、一人一人が、実際にボランティアを行う際の自分を想像しながら活動していたことがうかがえた。
- ・ ボランティアセンターの専門員を招聘した講義「ボランティア活動の意義」では、ボランティア活動の実際について具体例を交えて展開していただいた。講義にグループワークを取り入れることで、参加者がボランティア活動を主催する立場で考えることができた。

### 《課題》

- ・ タイムスケジュールのため、充実感が得られた半面、振り返ったり、話し合ったりする時間を確保することが難しかった。活動内容の重なり等を検討し日程を再構成したい。

